

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 3 区分
【発行日】令和 5 年 1 月 17 日(2023.1.17)

【公開番号】特開 2022-2142(P2022-2142A)
【公開日】令和 4 年 1 月 6 日(2022.1.6)
【年通号数】公開公報(特許)2022-002
【出願番号】特願 2021-167952(P2021-167952)
【国際特許分類】
G 0 6 Q 5 0 / 1 0 (2 0 1 2 . 0 1)
【 F I I 】
G 0 6 Q 5 0 / 1 0

10

【手続補正書】
【提出日】令和 4 年 12 月 26 日(2022.12.26)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項 1
【補正方法】変更
【補正の内容】

20

【請求項 1】

ユーザ ID、サービス利用時に関連付けて、アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴データを記録する行動履歴記憶部と、
前記行動履歴記憶部に記録された行動履歴データにおいて、処理対象ユーザの行動履歴に対して本人フラグ、他のユーザの行動履歴に対して本人以外フラグを付与した教師データを用いて生成された、本人である確からしさを予測する予測モデルを記録する学習結果記憶部と、

ユーザの行動履歴を、前記ユーザが用いるユーザ端末から取得する制御部とを備えたサービス管理システムであって、

前記制御部が、

30

サービス利用のためのアプリケーション起動時に、前記ユーザ端末で検知した挙動について、前記アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴を特定し、

前記特定した確認対象ユーザの直近所定時間の行動履歴を前記予測モデルに適用し、前記ユーザ端末のユーザが本人である確からしさを算出することを特徴とするサービス管理システム。

【手続補正 2】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項 6
【補正方法】変更
【補正の内容】

40

【請求項 6】

ユーザ ID、サービス利用時に関連付けて、アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴データを記録する行動履歴記憶部と、
前記行動履歴記憶部に記録された行動履歴データにおいて、処理対象ユーザの行動履歴に対して本人フラグ、他のユーザの行動履歴に対して本人以外フラグを付与した教師データを用いて生成された、本人である確からしさを予測する予測モデルを記録する学習結果記憶部と、

ユーザの行動履歴を、前記ユーザが用いるユーザ端末から取得する制御部とを備えたサービス管理システムを用いて、本人確認により提供するサービスを管理するための方法であって、

50

前記制御部が、

サービス利用のためのアプリケーション起動時に、前記ユーザ端末で検知した挙動について、前記アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴を特定し、

前記特定した確認対象ユーザの直近所定時間の行動履歴を前記予測モデルに適用し、前記ユーザ端末のユーザが本人である確からしさを算出することを特徴とするサービス管理方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

ユーザ ID、サービス利用時に関連付けて、アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴データを記録する行動履歴記憶部と、前記行動履歴記憶部に記録された行動履歴データにおいて、処理対象ユーザの行動履歴に対して本人フラグ、他のユーザの行動履歴に対して本人以外フラグを付与した教師データを用いて生成された、本人である確からしさを予測する予測モデルを記録する学習結果記憶部と、

ユーザの行動履歴を、前記ユーザが用いるユーザ端末から取得する制御部とを備えたサービス管理システムを用いて、本人確認により提供するサービスを管理するためのプログラムであって、

前記制御部を、

サービス利用のためのアプリケーション起動時に、前記ユーザ端末で検知した挙動について、前記アプリケーション起動時前の直近所定時間のユーザの行動履歴を特定し、

前記特定した確認対象ユーザの直近所定時間の行動履歴を前記予測モデルに適用し、前記ユーザ端末のユーザが本人である確からしさを算出する手段として機能させることを特徴とするサービス管理プログラム。

10

20

30

40

50